



ななつかの風

畜産技術センターニュース

発行事務局

●広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023
庄原市七塚町 5584 番地
TEL 0824-74-0332
FAX 0824-74-1586

2019年の出来事

七塚原高原は、冬の装いを整えつつあります。年末年始に向けての準備にも入りました。雪はどれだけ降るだろうか（業務の前に除雪が必要）、冷え込みは厳しくないだろうか（水道が凍結するとできない作業あり）、心配は多々あります。

今年は、時代が平成から令和に変わり、節目の年となりました。当センターは、1900年（明治33年）に「農商務省七塚原種牛牧場」として開設されました。4つの時代をその時々々の社会の求めに応じて活動してきた通称「七塚原牧場」は、まもなく設立から120年を迎えます。

現在は、牛に特化した試験研究機関（牛の代わりをしてもらうため、牛より小柄な羊も8頭います）ですが、業務は研究だけではなく、行政施策上の事業も行っています。牛、牧草地、ポプラ並木など広島では希少な環境にあることから、観光地としても親しまれています。

春の七塚原写生大会（5月）

毎年、こどもの日に地元の庄原市東自治振興センターが主催する写生大会は52回目。今年も庄原市内の親子連れ150人余りが五月晴れの下で画才を發揮しました。



“A-クイック” 待ちに待った製品化（6月）

牛の健康管理は経営を左右する重要な技術です。健康状態を把握する指標の一つにビタミンAがありますが、従来は血液分析を専門の業者に依頼する必

要があるため、結果がわかるまでに2日以上時間を要しました。そこで、LEDを利用して、牧場でビタミンAを測定することができる新たな「ビタミンA簡易測定器」



を開発しました。新聞報道の後、共同開発した業者や当センターに問い合わせも来ており、今後の普及を期待しています。

祝！受賞①（6月）

城田圭子さん（飼養技術研究部副部長）が、公益社団法人畜産技術協会から優秀畜産技術者表彰を受けました。飼料研究を長年行って新たな技術の開発と普及に貢献しているほか、当センターの牛の健康を守る獣医師としても活躍しています。

搾乳体験（7月、8月、9月）

食育の観点からも、子供たちの畜産に対する理解を深める機会は有意義です。今年は昨年よりも1回多い3回、福山市立西深津小学校5年生60人、庄原市美古登小学校3・4年生親子44人、英数学館小学校24人の児童たちに和牛の種雄牛や搾乳ロボットの見学、そして搾乳を体験してもらいました。



祝！受賞②（8月）

山本哲史さん（育種繁殖研究部研究員）が、日本胚移植研究会から奨励賞を授与されました。対象となった研究は、体外受精胚の品質を高める技術です。

これは、畜産行政施策の柱である広島血統和牛増産事業に貢献するものです。

受精卵保存器具“ビトラン-7” デビュー！（9月）

研究の柱の一つは体外受精胚に関する技術開発です。成果発表会で、開発物語と利用者の声を紹介しました。ビトラン-7は、わずか13cmほどのストローク状の器具ですが、融解作業が煩雑なガラス化体外受精胚の移植が畜産業界では一般的な「人工授精」と同様に実施できる優れたものです。これを使って、酪農家の協力のもと、乳牛に和牛を生ませて広島和牛を増やす事業を展開中です。

記念館大掃除（9月）

屋根に大きな穴が3か所も開き、雨漏りのために床が腐って抜け落ちそうな中、4tトラック1台分の片づけを行いました。

記念館は、1975年（昭和50年）に現在の本館が新築されるまで使用していた旧館です。建築されたのは、1909年（明治42年）とされています。当時のヨーロッパで流行していた建築様式を取り入れた瀟洒な木造2階建ての白い板壁の建物です。（H29発行の「ななつかの風第24号」にて詳報）

新しい本館の完成後に取り壊される予定でしたが、



地元の高い要望によって「七塚原記念館」として、保存と一般公開されることになりました。（左の写真は10年前の姿）

しかし、老朽化が進んだこととセンター自体の一般見学を中止（防疫上の理由から）したことから、10年ほど前からは閉鎖状態です。内部には、平成時代前半までの研究成果を紹介した展示物や当時の研究資料などが山積みになっていましたが、今年度きれいに清掃しました。

ルーツを訪ねて（10月）

夏のある日、ペンシルベニアから一本の国際電話がありました。祖父が大正時代、七塚原牧場に勤務

していたとのことで、秋に来庄するので見学できないかとの相談でした。防疫上の理由から牛舎は案内できませんでしたが、当時のもので唯一現存している記念館を案内し、冊子「七塚原と和田彦次郎」（七塚原地人協会編）を記念に差し上げました。

後日、丁寧なお礼の手紙が届きました。そこには、冊子中に叔父の姿（写真）を見つけたこと、さらには祖父に関する記述があり、昭和二年大正天皇の轎車（じしゃ）牽引牛（広島の種雄牛が選ばれました）の輸送付き添い並びに赤坂離宮での調教業務を担ったことなど、貴重な事実を知ることができたことに感謝したお気持ちがつづられていました。



ストップザ倒壊（11月）

記念館は最近の台風や豪雨などで、前述のとおり一段と老朽化が進んでいますが、最大の問題は屋根の損傷でした。柱や梁など建物を支える構造体の劣化を防ぐために雨漏りだけは防いだほうが良いと判断し、屋根の穴を補修しました。（左の写真は修理中の様子）一昨年からは、プロの建築家の意見を伺ったり、他の歴史的建築物の状況調査、記念館周囲の環境美化（樹木伐採）、内部の片づけ、そして今回の雨漏り補修と3年越しの行動も、ひと段落といったところでした。



（編集後記）久しぶりの発行になりました。お伝えしたいことが積み過ぎました。元号だけでなく、番地も変わりました。次号は、間をあけずに発行します。

皆様、良いお年をお迎えください。